



2021年3月22日

株式会社立花商店 生田 渉

(新) 週刊カカオニュース 37号

毎度お世話になります。カカオトレーダーの生田と申します。

今週のカカオニュースを配信させていただきます。

3月のカカオニュースを3週分まとめて配信させていただきます。

1. ガーナのカカオ生産者の一日当たりの収入は1ドル。スタンビック銀行調査(3/18)

スタンビック銀行のチームが行った調査によると、ガーナの推定生産量 812,000 トンのカカオ豆のうち、同国内でのカカオ加工能力は年間 45 万トンと推定されていますが、現地で実際に加工されるのは 30%である。この調査結果はまた、ガーナのカカオ生産から毎年発生した同国の総収入 19 億ドル（≒2000 億円相当）の収益のうち、全国 80 万人のカカオ生産者が入手できた 1 日の収入は 1 ドルであると示した。カカオ生産が 1870 年代からガーナ経済の屋台骨となっているという事実にもかかわらず、またガーナの国内総生産(GDP)の約 2.2%を占めているにも関わらず、生産者の収入は改善していない、と指摘。

また、同調査によると、カカオ生産は、平均 3 ヘクタール未満の小規模農家によってほぼ栽培されており、カカオの成長に必要な不可欠な肥料の提供とカカオ栽培の機械化がほぼされていない事を示しています。これは、同国内でカカオ豆の加工を行う企業に対してのカカオの提供に影響を与えている。

コートジボワールは 1978 年に世界的にココアの最大の生産国としてガーナを追い越し、それ以来、同産業の世界 1 位の生産者であり続けています。ガーナの現在の 1 ヘクタール当たりの生産数量は、コートジボワールで約 700kg、南米では約 2.5 トンであるのに対して、僅か 400 kg となっています。

この研究は、スタンビック銀行の強力な業界知識とカカオセクターに対する理解を反映したもので、先日、同銀行は、今年の同国ココア産業における最も優れたファイナンス企業として表彰されました。

2. コートジでの降雨がミッドクロップの品質改善に寄与の期待。一方で密輸も(3/15)

先週、コートジボワールのカカオ栽培地域の大部分で平均以上の雨が降り、また日照りもあったことから 4 月から 9 月に収穫、輸出されるミッドクロップカカオの品質を高めるために良い影響があるだろうと農民が語った。コートジボワールは、通例 11 月中旬から 3 月までは乾季で降雨量が不足しがちである。

生産者は、10 月から 3 月のメインクロップは既に終わり、ここ最近の豪雨は 5 月から 6 月に収穫されるカカオ豆の大きさと品質を改善するだろうと期待した。一方で、彼らは、ガーナに隣接する東部の州の国境沿いでは、ガーナのバイヤー達へ販売しようとするコートジ側の仲買人が現在活発に活動しており、コートジ側の買い

付け価格である 1kg あたり 750 CFA フランと比較して、ガーナのバイヤーが 1 キログラムあたり 850～900 CFA フラン(≒\$1.62)を支払って買い付けをしており、国境沿いではカカオの取り合い競争が激化しているという。コートジの政府が保証している今クroppのファームゲート価格は、1kg あたり 1,000 CFA フラン(≒\$1.8)を提示しているが、実際には守られていない。

3. カメルーンはココア、コーヒーの生産量を増やすために 9100 万ドルを投資 (3/20)

カメルーンのヤウンデ-カメルーン政府は金曜日、今後 5 年間でココアとコーヒーの生産を増やすために 500 億 CFA フラン (9,100 万ドル≒約 100 億円) を注入すると発表しました。

国営のコーヒーとココアセクター開発基金の管理者であるサミュエル・ドナティエン・ネングによれば、カメルーンは現在 25.7 万トンの同国のカカオ生産を 2030 年までに年間 64 万トンまで拡大したいと計画している。コーヒーに関しては、2019-20 シーズンの予想 32,000 トンと比較して、2030 年までに年間 16 万トンの生産を目標としている。

4. コートジボアールのカカオ着荷数量 3 月 1 日-7 日の週は 25,073 トン (3/9)

政府のカカオ業界のデータに詳しい関係者によると、コートジボワールの農民は先週、25,073 トンのココアを港に送った。前年の同じ週の集荷数量は 34,075 トン。また、10 月 1 日にシーズンが始まって以来の総到着数は 169 万トンとなり、これは、昨シーズン 19/20 シーズンの同時期までの総着荷数量の約 168 万トンの推定値とほぼ同じ。

下記は、同国内でのカカオ豆を輸出及び加工用に買い付けた企業の上位リストである。

*期間は 20 年 10 月 1 日から 21 年 3 月 7 日までを反映。

会社名	購入数量(トン)
カーギルグループ	242,733
アウトスパン(オーラムグループ)	215,055
Saco社	169,664
Touton 社	120,742
S3C 社	110,956
その他企業	831,616
合計	1,690,766

5. ガボンがコーヒー・カカオ産業を推進、21 年に 12.7 百万ドル (約 13 億円) の投資 (3/9)

ガボンの国営ココアとロブスタコーヒーを管轄する官庁は、3 月 8 日に、2021 年に両方の作物の生産を増やすために 70 億 CFA フラン (1270 万ドル≒13 億円) を投資すると発表した。

同官庁のマネージングディレクターは、投資は人材の採用と新しい農園の開拓に投入されると述べ「カカオとコーヒーの栽培を促進するために、両方の作物について農家に支払われる金額を増やし、すべての農家にこの業界でふさわしい収入を保証していきたい」と期待を込めた。同国のデータによれば、ガボンのロブスタコーヒーの生産量は 2025 年までに 6,000 トンに達すると予想されています。2019 年には約 500 メートルトンのロ

ブスタコーヒーが生産されました。また、カカオの生産数量は 1970 年代には、6000 トン規模の生産があったが、現在では 200 トン弱である。

6. ナイジェリアのカカオ産業はもっと経済に貢献可能。ナイジェリアカカオ産業の現状 (3/10)

WorldAtlas 社からの報告によると、コートジボワールは世界のココア生産国のトップであり、世界のココア全体の 33%を供給しており、年間生産量は 200 万トンを超えている。現在、カカオ産業は同国輸出入の約 40%を占めているため、同国の経済はカカオ栽培に大きく依存している。

一方、ナイジェリアについてはどうだろう。1960 年代に石油が発見される前は、農業は、オンド、クロスリバー、イード、オスン、オヨ、クワラ、コギ、アダマワなどのカカオ生産州を通じて平均 40 万トンを生産するし、コートジボワール同様にナイジェリア経済の主力産品であった。

国際ココア機構 (ICCO) のデータによると、ナイジェリアのココア生産量は、世界のカカオ生産国の中で 6 位にランク付けされ、総市場シェアの 5%を占める。近年カカオの需要が高まっているにもかかわらず、ナイジェリアにおいては、2017 年の生産数量で 21 万トンに減少した。

ナイジェリアのカカオ豆の主要な輸出先は、オランダ、ドイツ、インドネシア、マレーシア、ベルギーで、最終的にはチョコレート、スプレッド、チョコドリンクなどの製品の原料となっている。ナイジェリア輸出入銀行 (NEXIM) によると、世界のカカオ豆の輸出総額は約 100 億ドル (≒1 兆円) 程ですが、カカオ豆を原料とするすべての完成品の総額は年間 2,000 億ドル (≒20 兆円) で、チョコレートカテゴリーだけで 1,000 億ドル (≒10 兆円) と分析されている。これは、素原料であるカカオ豆の生産ではアフリカが世界生産の 73%を占めているが、そこから産まれる総価値の金額と比較すると、全体の 5%未満しか享受できていない事を意味している。

2020-2021 年産のカカオ生産数量もナイジェリアは伸びておらず、本来であれば、カカオ豆生産やその加工品の販売を通じて、より多くの収入を得る可能性があるにもかかわらず、それが出来ていないと語った。同国のカカオ産業に対する問題について、ニジュール・デルタのパートナーシップ・イニシアチブ担当エグゼクティブ・ディレクター (PIND) は朝食会で、「ナイジェリアのカカオ豆は国際市場で、他国よりも更に割引価格で販売されており、バリューチェーンの中では特に農家の収益性が低い」と述べた。彼はまた、バリューチェーンの調査、研究から個別生産者の低い生産性と品質の悪さが、カカオ産業全体の生産性と収益性が低い理由であると指摘した。

政府は非石油経済活動の増加に取り組んできたが、経済の多様化プロセスは完全には実現していない。これは、多くの国や地域と結んだ様々な免税二国間および多国間貿易協定を活用して、非石油輸出を促進してこうと取り組む政府側の考えに反して、現状では、生産性の低さと品質の悪さのためにカカオや加工品の輸出を通じて外貨を得る機会を自ら逃している事を意味している。

7. ナイジェリア南西部の降雨量がミッドクロップココアの成長を後押し (3/10)

金曜日の夕方にナイジェリア最大のカカオ生産地域では、年始以来、最も激しい降雨を受けたと報告。業界関係者とトレーダーは、この降雨が 2020-21 年のミッドクロップココアの成長を後押しすると述べた。オグン、オヨ、オスン、エキティ、オンドの各州からなる南西部は、これまで数週間乾燥した気候であり、ミッドクロップの発達が不十分でした。ナイジェリアの年間生産数量の 28 万トンと推定されるカカオ生産量の約 70%は、南西部で生産されている。

オヨ州の州都イバダンのトレーダー、デジ・オモソラ氏は、この地域の 5 つの州で降雨があったと述べ、「今年はこれまでで最も降雨量が多く、カカオの木はかなりの水分を獲得し、新しい花や鞘が発達するだろう」と付け加えた。

ナイジェリアでの季節ごとの2回のカカオ収穫の2番目であるミッドクroppは、天候が良い場合に、国の年間カカオ生産量の約30%程を生産し、通常は3月から7月、8月も間にかけて収穫される。

8. バリーカレボーがインドのバラマティに新しいチョコレート工場を開設すると発表(3/12)

高品質のチョコレートおよびココア製品の世界有数のメーカーである Barry Callebaut Group は、インドのバラマティに新しいチョコレート製造工場を正式に開設したことを発表した。バリーカレボーの新工場はムンバイの南東約250kmに位置し、同国内3つめの工場で、これまでのインドへの最大の投資となった。新しいチョコレート工場と倉庫には、R&Dラボと、チョコレートとコンパウンドチョコをさまざまな配送形式で製造できる組立ラインがあり、国際的な食品メーカー、地元の製菓、半工業用のパン屋やパティスリーなど、顧客のさまざまなニーズに応えられる。

バリーカレボーグループのCEO、アントワーヌドサンアフリクは次のように述べた。「バラマティの新しい工場は、バリーカレボーのインドへの直接投資の歴史における新たなマイルストーンを示しています。人口の多い国、大きな可能性を秘めた菓子市場。私たちの「スマートな成長」戦略に沿って、新しい工場はこの地域での現地生産を通じて地元経済にも貢献します」この工場が、完全に稼働すると、20,000平方メートルの施設は100人から120人の従業員を雇用し、主にエンジニアリングとチョコレート生産分野において新しい専門家の雇用を生み出します。新工場はまた、インフラストラクチャ、生産設備、および施設全体のエネルギー制御システムの分野でも最先端の設備を導入しており、さまざまなエネルギーおよび節水ソリューションを備えています。

9. パプアニューギニア：生産者からカカオ栽培への関心への高まり(3/5)



同国の新聞 The National より；

商品作物としてのカカオ栽培のアイデアは、パプアニューギニアのジワカ州の高地で急速に広がりつつあると当局の担当者は言う。

PNG カカオボード (PNGCB) で働いている研究農学者ピーター・バピワイは、PNG の高地におけるカカオの研究開発を支援している。彼によれば、カカオ栽培は高地エリアの全体で高い関心をもたれてきているという。

今週水曜日、バピワイはジミ州、ジワカ州の3つの生産者団体に同行し、約1トンのカカオ豆を現地のアウトスパンに販売を行った。同氏によれば、これらの3つのグループによって植えられた木の総数は37,000以上で、現在の主な課題は、アクセシビリティ、現場の技術スタッフの不足、カカオの成長、生産に欠かせない肥料や農薬の供給、市場への販売支援であると説明した。このハイランド地域でのカカオ栽培の目的は補完的な換金作物を生産者に提供することで、「人々が生活水準を維持し、改善するために収入を生み出すのを助けるために良い作物である」と言います。

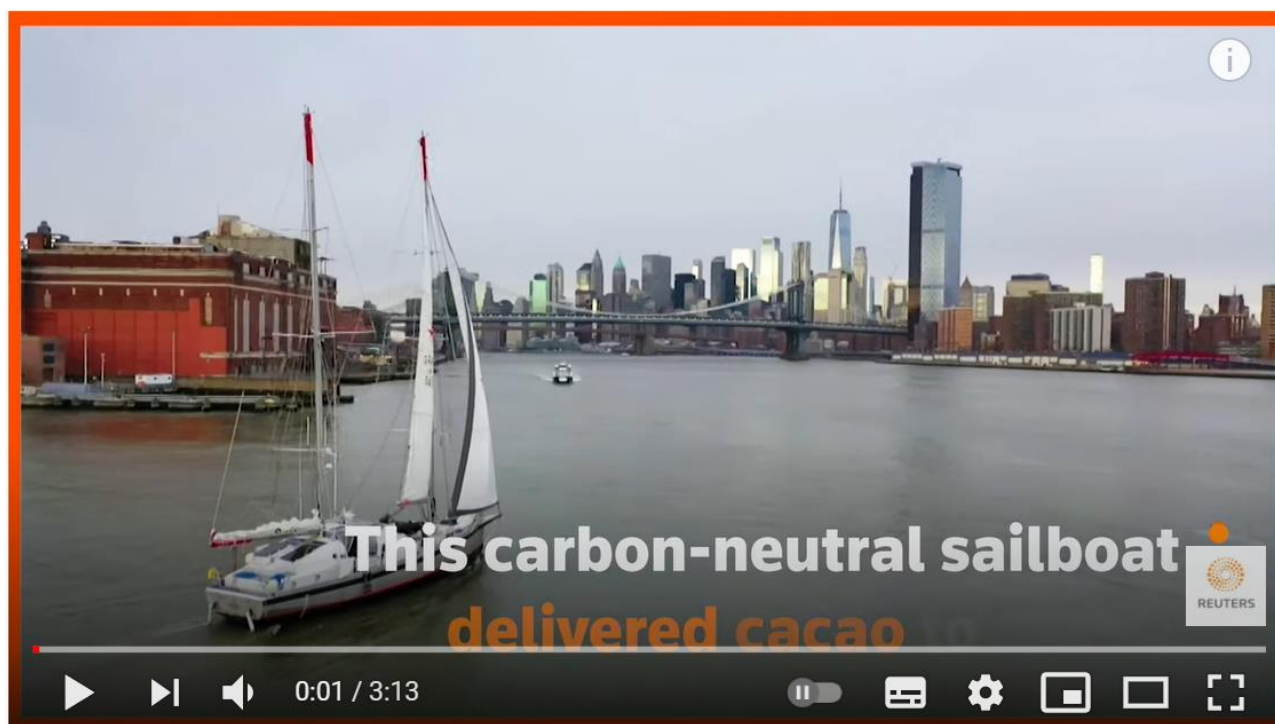
「この地域の人々は収入を得る機会がほとんどなく、カカオはハイランド地域で既に作られているコーヒー以外で重要な収入源になると思います」と期待を込めて語っている。

しかし、現時点では、目標を達成するためには、生産者を組織化し、適切な農業資材の提供、農業トレーニングなどを提供する必要があります。

PNG カカオボード 2050 ビジョンによると、同国のカカオ生産の目標は2030年までに310,000トンを目指している。

10. カカオはカーボンニュートラル・ボートで大西洋横断を航行する (3/6)

ちょっと変わったカカオに関するニュースがありました。米国のニューヨークから出港し、ドミニカ共和国でカカオを積み込んで、フランスまで3か月かけて輸送したカーボンニュートラルの船の話です。化石燃料を使わず、風と太陽光を原動力にして、3か月もかけてカカオを輸送することで、環境への意識や、先人たちが昔カカオ生産国から消費国へ輸送した困難さを感じる事が出来たとのこと。米国でコーヒーやカカオを扱う企業が実行した企画とのこと。カカオの輸送でコンテナ船を大量に使用し二酸化炭素排出を行っている事にも我々は注意を払っていかねばなりません。



<https://www.youtube.com/watch?v=oRyRD50-AqQ>

11. ガーナで名誉会長になった日本人が築いた信頼（東洋経済オンライン、3/5）

～チョコの原料カカオ産地を15年にわたって支援～

<https://toyokeizai.net/articles/-/414106?page=2>

東洋経済オンラインの記事に、(株)明治の土居様のガーナでのカカオ生産地支援活動の話が記事になっていました。2005年に初めてガーナに訪問され、その後15年間様々な支援活動を行ってきた経験のお話です。

日本のチョコレート業界のカカオ生産者、生産地域への支援活動のパイオニア的な活動としては、当記事に特集されている(株)明治のガーナの支援と森永製菓(株)の『1チョコ For 1スマイル』キャンペーンが私の記憶にはあります。世界のチョコレート業界全体の課題として、夫々の企業規模や、夫々の役割の中で全ての人が考えていくべきテーマだと思います。

～本文一部抜粋～（全文は上記アドレスより）

土居さんがガーナを初めて訪れたのは、2005年。明治製菓（当時）の社員として、チョコレートに使うカカオ豆の品質調査をするのが目的だった。そこで土居さんは、現実を目の当たりにした。「カカオ生産者のほとんどが零細農家で、村には水道、電気、道路、学校、病院などインフラが整っていないところが多く、人々の生活は楽ではありません。それならカカオ豆を買う地域に我々が支援し、長く関係を築いていこうと思いました」（土居さん）。

明治がカカオ豆を購入するガーナ西部のアセラワディ村では、住民のほとんどが、カカオで生計を立てている。困りごとをヒアリングすると「井戸がほしい」という声が多かった。日本の常識では考えにくいかもしれないが、村には水道がない。水は遠くにある小川へ汲みに行かねば手に入らず、それは主に女性や子どもの仕事だった。

土居さんは、情報を自社に持ち帰って井戸の寄贈を決定。2009年に、井戸は1年がかりで完成した。「ある日、村の人から今日はちょっとしたセレモニーがあるらしい、と聞いたので出かけていったら、まさか自分が主役だったとは……」と、土居さんは振り返る。実は、セレモニーとは、土居さんの「名誉会長任命式」だったのだ。あわせて、井戸のお披露目式も盛大に開かれた。子どもたちをはじめ、村人全員が集まり井戸を囲んだ。「水が汲み出された瞬間はとくに感動的で、大きな歓声があがりました」。

週刊カカオニュースの配信の削除、ご依頼については、下記アドレスまでご連絡願います。

株式会社 立花商店 生田 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp

*本ニュースの相場情報は、客観的なデータの報告及び、著者の主観的な意見を述べるものであり、一切の取引の推奨を目的としたものではございません。カカオ先物、及び現物の取引におかれましては各個人様、法人様のご判断に基づいて行って頂きますようお願い致します。